第４章　召命を振り返る

Reflections on One's vocation

第１節　シスターの想い　（初誓願順 62名）

シスターメリー ジョセフ 續木

熱心な聖公会の信徒の家庭で育ちましたが、スクート会のスパー神父様との出会いがあって、カトリックに改宗し、ノートルダムに入会しました。日本で最初に入会した４人の中の一人です。日本人は私たち４人だけで、後はアメリカ人のシスターでした。修道院の生活は片言の英語と日本語で、分からないこと、通じないこと、行き違いなどがありましたが、泣いたり笑ったりの楽しい日々でした。

誓願を立ててからは、中学、高校で音楽を教え、のちに大学が創立されてからは、大学でも音楽を教えました。

今、会の中で最高齢者となり、若い人たちに手厚い介護をしていただいて、とても幸せで感謝しています。

何もかも、すべて神様のお計らいでした。

（初誓願 1952）（文責 Sr. ポーラ）

シスターエリザベス マリー 石田

私はなぜ来日直後のSSNDのシスター方と出会ったのか。当時私が東京八重洲ホテルの食堂でウェイトレスとして働いていて、メリノールの神父様方とお出会いしたことが全ての始まりです。

その頃八重洲ホテルは進駐軍将校・軍属の宿舎で、メリノールの神父様方も泊まっておられました。高校を卒業して仕事を探していた私は、「英語に触れられる職場」として八重洲ホテルの食堂で働くことを選んだのです。

神父様方との出会いでキリスト教に関心を持った私は、1947年12月に公教要理の勉強を始めました。銀座三越７階の「カトリックセンター」で行われていた要理教室に週２回、４か月通って３月末の復活祭に洗礼を受けました。その間に神父様方の生き方に憬れ、シスターたちの話も聞いて修道召命を感じ始めたのです。

その後マキロップ神父様が京都に転勤され、神父様を訪ねて京都に来たのがSSNDシスターズとの出会いのきっかけでした。メリノール会は養成がアメリカだということもあり、ノートルダムに決めて1949年の９月に入会しました。シスター方は楽しく、一人ひとりが色合いの違う優しさで関わってくださいました。

本会が日本に根を下ろしたときに入会し日本人の最初のグループの一員として誓願を立てた私は、会の成長発展に伴い、広く様々なところへ派遣され、多様な出会いと学びの機会に恵まれました。多くの方々が恵みのチャンネルになって下さいましたが、共同体メンバーの存在は大きいでした。自分には到底無理なことも、神さまは時に応じ、必要に応じてさせてくださいました。すべて、『神に感謝！』です。

（初誓願 1952）

シスターメリー アンシラ 坂口

1945年、東京はアメリカのB29による大空襲で見渡す限りの焼け野原でした。そんな中、父の蔵書で読んだ「光の中を歩め」という言葉が心に残っていました。

その光を求めて、御殿山近くの教会を訪ねました。それはプロテスタントの教会でした。その後三井銀行本店に勤めましたが、そこで２～３人のカトリック信者の方に出会い、カトリック銀座教会に行くようになりました。教会は銀座４丁目の焼け跡に残った元三越デパートの７階にありました。そこでメリノール会のチベサ神父様と出会い、プロテスタントから改宗して、カトリックの洗礼を受けました。チベサ師はノートルダムの卒業生でした。

1948年に来日されたばかりのノートルダムのシスター方が銀座教会に立ち寄られたことがありました。私が修道女になりたい意向をお伝えすると、「京都に修道院があるから来なさい」と言われ、始めての京都へ行き、修道院を訪れました。

志願者のころチベサ神父様が修道院に来られたことがありました。志願者は外部の方と話してはいけない規則でしたが、神父様が志願者の部屋の窓の外を通られたとき、「もうお会いできない」と思い、神父様に声を掛けて修道名のことを尋ねました。神父様は一言『アンシラ』とおっしゃいました。『はしため』それが私の修道名の由来です。

その頃志願者は教会の日曜学校に派遣されていました。また、夕方５時には庭のマリア像の前に集まり七つの祈り（Seven Offerings）を英語で唱えました。楽しい思い出は『御殿』の小部屋のベランダで私たち志願者７人が並んでシスターメリージョゼフの指導で『ハレルヤ』などの聖歌を歌ったことです。グレゴリオ聖歌などの教会音楽はシスターメリーヘレンが、英語はシスターヴィヴィアンとシスターメリーが教えてくださいました。シスターメリーポーロはヴァイオリンの個人レッスンをなさりながら修道院の営繕も担当しておられました。私たちはシスターメリーポーロからロザリオ作りを教えていただき、シスターになったらシンクチュア（修道服の帯）に下げる大きなロザリオを作りました。

修道院の会計は、シスターユージニアがしておられましたが、シスターメリーポーロが引き継がれ、私もお手伝いをしました。

その頃、勉強をするシスターが増え、東京麻布六本木に修道院が開設されました。フランシス

コ会日本語学校のすぐ近くでした。大学に通うシスター、日本語を学ぶミッショナリーのシスターたちもいました。他の修道会のシスター方も寄宿しておられたので多人数でした。炊事は近所の方にお願いしていました。

（初誓願 1953）

シスターメリー ベネデッタ藤森

女学院の寄宿舎の舎監として、思春期の若者たちに出会ったこと、短期間であったけど、韓国ミッションに派遣され異文化の世界を体験したことは、私の SSND 人生の中で大きな位置を占めています。

（初誓願 1955）（文責 Sr. ピートラ）

シスターメリーマイクル 田代

シスターメリーマイクルは1954年に入会、志願期の２年間と初誓願後の５年間、ノートルダム女学院で英語・社会・宗教を教えられました。1962年から２年間はアメリカカトリック大学（ワシントン DC）で図書館学を修め、修士号取得後、ノートルダム女子大学に派遣されました。

1977年に学校法人理事長及びノートルダム女子大学第２代学長に着任、16年間務められましたが、この間、大学の入学定員倍増に伴う校舎増築工事、アメリカの姉妹大学及びレジス大学との交換留学制度確立、キリスト教文化研究所設立など、時代に合わせた大学の発展に貢献されました。

理事長・学長を退任後、刷新・研修の時を過ごし、中国の曲阜師範大学の客員教授として日本語を教える機会にも恵まれました。1997年からはメリーランド州トゥーソンにあるノートルダムプレップ高校で日本語を教えられ、京都のノートルダム女学院とプレップ校との交流の機会にも進んで協力をしてくださいました。2004年にアトランティック・ミッドウェスト管区に移籍され現在に至っています。シスターの温かく穏やかな人柄、他者への自然な心配りなどは今も変わることがありません。

（初誓願 1957）（文責 Sr. ジュディス）

シスターメリーイメルダ 野元

私が SSND のシスターと初めて出会ったのは、ノートルダム小学校開校の一か月ほど前だったでしょうか。

私は鹿児島で教会の幼稚園に勤めていましたが、姉がどこへ行っているのか、母も知らなかったので、京都で修道院の志願者になっていることに驚きました。その上、幼稚園の資格は持っていましたが、小学校の資格もないのに、小学校の先生として京都に来て欲しいとのこと。手紙を読みながら、どうして私が？と。姉は、私が小さい子どもが大好きだと知っていたのでしょう。でもなんとなく急いでいるようだったので、母と相談し、とにかく、一年生なら？と首をかしげながら返事をしたのを思い出します。母は、私がいつも母と一しょにいて、家から離れることがなかったので「行っておいで」と励ましたくれました。私はくわしいこともわからず少し心配でしたが…。

京都に着いてアメリカ人のシスターにお会いして、ドキドキしていたのをよく憶えています。英語はわからないし、話せないし、全く初めて小学校の先生になるなんて、…。背の高いシスターを見上げながらとても不安でしたが、お目にかかった校長様はゆったりとして、ほほえみながら私を迎えて下さいましたので何かほっとしたようです。

次の日から小学生を迎える準備が始まり、女学院の三教室をおかりすることになっていたようで、もう一人の日本人シスターと、志願者の姉と私と三人でクラスの準備、授業をどのように…など、仕事が始まりました。大好きな子どもたちとのかかわりを想像しながら。そして子どもたちを通して、又、シスター方とのかかわりから、神様は私をご自分の方へと引き寄せておられるのを感じるようになったのでしょうか？

（初誓願 1957）

シスターアンミリアム 木村

日々、体力の衰えを感じる私に、新しい朝が訪れます。それは私の中にまだ残されているわずかな力と、決して衰えることのない希望を確認する時です。今日も何かができる、感謝することができる、本が読める、共に楽しみ、喜び合うことができる、祈ることができる、恵まれた私の毎日です。

修道院で過ごした65年という時が、深い感動を与えています。召命に応え、恵みに満ちた修道生活を可能にすることができたという事実の真意を、やっと、少しずつ悟り始めているからです。

神の摂理という真理の中で私のすべてが、ノートルダム教育修道女会と、そこに関わりを持つすべての方々に、受け容れられてきました。

病弱や欠点も立誓願の妨げとされず、様々な形で学びの機会が与えられ、活動の場での自由な発想と試みが許されました。国を超えて多くのシスターたちとの交わりを体験し、持続してきた私は、心豊かにされました。

時として、反発を感じ、躓き、失意に陥ったという事実さえも無駄にはなりませんでした。共に生きる人々から受け容れられていることに気づき、自分も他者を受け容れることを学びました。神の愛を生きること、会憲で、繰り返し求められている「人々の中で証しとなる」ということは、これかなと思うのです。

（初誓願 1958）（2019. 5. 5　帰天）

シスターメリー アンブローズ 河瀬

仏教徒の都市、京都にミッショナリーとして来られた４人のシスター方に心からの

尊敬と感謝の心が沸き起こります。戦後、海を越え、不便を忍びながらこの京都の地でミッションを始められたシスター方の惜しみない献身、勇気、信仰の深さと強さに感動し、その生き方に惹かれました。神への強い信頼とご自分の信念を貫き通されたその姿が今も心に強く刻まれています。シスター方の生き方からたくさんのことを学ぶ毎日でした。特にシスターユージニアは生徒一人一人に温かく大変親切に接しておられました。

また、最初に入会されたシスターメリーキャサリン皆福の勇気にも感動します。ご苦労の多い日々だったかと思われますが、言葉の壁を越えいつも明るく過ごされたシスターにも感謝したいと思います。

（初誓願 1958）（文責 Sr. ジョアンナ）

シスターマリエッタ 山田

私はシスタージョン・コンラッドがトニー・ブロードニャック神父様と企画しておられる個人指導のプログラムに参加し、トニー神父様に、随分長い間指導していただきました。

神父様は聖書を心で読み、祈り、味わうように指導してくださいました。このやり方は私の心を落ち着かせてくれました。このやり方のおかげで、教会の方たちとの「聖書 100 週間」や「セブンステップ法（効果的な問題解決）」を進めていくのに大変役立ちました。
（初誓願 1959）

シスターセリーン 松本

メリノール宣教会のマキロップ°師のもと、高野教会で公教要理を学び、1948年12月24日、クリスマス・イヴに受洗、初聖体を受けました。25日の午後、神父様がメリノール修道院でのベネディクションに誘って下さったので、大喜びでジープに跳び乗りました。聖堂に入り後方に座った時、真っ黒な4つの山を見ました。

ベネディクションの後、馬小屋が作られた座敷に通されて馬ぶねのイエスに祈っていると、後ろに人の気配を感じました。振り向くと、驚いたことに、手、足は勿論、髪も見えない白黒の巨人が立っていました。心臓が張り裂けるばかりのノートルダム会の4名のシスターとの初対面でした。来日され、鹿ケ谷に居を定めるまで、メリノール修道院に寄留しておられたのです。

それから、毎朝、私は高野教会でミサに与りました。ある時、25歳で自分自身を捧げ尽くしたいという強い呼びかけを感じたのです。　私は神のみ旨は何処にあるのか懸命に祈りました。神への献身の道か、或は、7歳の時父が死亡して以来、手塩にかけて育ててくれた母の望む結婚への道か。神の呼びかけは強く、私は1957年4月7日、ノートルダム教育修道会に25歳で入会しました。

初誓願、再誓願の時も二つの道への迷いはありましたが、神の愛によって誓願生活を続ける恵みを得ました。実際に、母は私が入会した時すでに、自分の個人的な望みを断念していたのでしょう。終生誓願の前のこと、母が私を神に捧げてくれると言ってくれました。

司式をしてくださるバルバロ神父様に、私自身をパテナにのせて、奉納して下さるようおねがいし，遂に、私は　愛する主に自身を奉献することが出来たのです。それから、早、60年の年月が経ち、限りない神のはからいと愛の中に「今」生かされていることの有難さを噛みしめています。

（初誓願 1959）

シスターメリークレア 小原

1954年復活祭に大津カトリック教会で洗礼を受けました。受洗記念に戴いたご絵の中のシスターが本会創立者の福者マリアテレジアでした。これが解ったのは入会してからでしたが、その時は大変驚き喜び一杯で決して忘れることがありません。

本会を紹介して下さったのはメリノール会のオドノヒュ神父様です。又、メリノール会のシスター方も教会で献身していらっしゃいました。その生き方に心がうたれ入会の恵みを頂きました。

70周年を振り返る時、召命の恵みを共に生きてきた共同体のシスター達から多くのことを学び、そして愛され、ゆるしていただき、特に祈りで支えられてきたことが沢山心によみがえって来ます。今、感謝の心でいっぱいです。

又、修道会を通して学ぶ機会を与えられ、毎年の黙想会にも恵まれて、霊的成長のため豊かにされながら歩めたことも喜びとなっております。

福者マリアテレジアのカリスマに生かされて、導かれながら、教会と使徒職の場で多くの人々そして子供たちと関わり繋がって奉献生活を歩めたことは大きな喜びです。

この喜びと恵みは何にも変えられない70周年の宝物です。

（初誓願 1960）

シスターモーリン 和田

私は、1958年2月2日に入会しました。教育会であることや、創立者のことも全く知らず、ただ、聖母マリアの会に入りたいという望みと、家族のため京都に本部のある会に入れと言う指導司祭の指示に従って導かれました。

国際会である本会に属することによって、コミュニティ生活を通して、使徒職を通して、想像できないほど多様で豊かな恵みを頂きました。中でも、私にとっての最高の恵みは、「大黙想」（1970年）の機会を頂いたことです。そこで、初めて、救い主イエス・キリストに出会い、何のため、誰のために生きているかを分からせて頂いたことです。私をお呼び下さった「主である神」に、絶対の信頼をかけて応えること。その恵みがもとになって、地区長に呼ばれたとき、ネパールミッションの識別の時、総評議員に呼ばれたとき、などなど、震え慄きつつも、ただひたすらイエスを信じて未知の深淵に飛び込む、信仰と信頼の行為を生きる恵みを頂きました。本会の寛大さ、多くの欠点を持つ私を赦し、受け入れ、支えてくださるコミュニティのおかげと感謝しております。

奉献生活において、自分自身の罪深さ、神を神とあがめぬ傲慢さを、日々感じるたびに、また、

現在の使徒職における、自分の非力を痛感するたびに、へりくだって主なる神の憐れみと慈しみに絶大な信頼をかける恵みを願い、み旨の行われる事を願って歩んでおります。
“神の慈しみは、永遠。神の慈しみに感謝と賛美！”

（初誓願 1960）

シスターメリーアグネス 渡辺

1985年、誓願25周年、ローマでの刷新プログラム：ドイツ（マザーテレジアの生地、会の発祥の地）、アメリカ（セント・ルイス）大勢のシスターズに祝って戴き、感激！すべてが大きい！
ノートルダム女子大学　1988年～1995年
1995年、生涯養成コースでフィリピン体験学習、日本と違って貧しいのにびっくり。
1996年名古屋城北橋修道院。1年間キリスト教講座受講。「リーダー養成コース修了証」を頂く。
1999年城北橋教会退職と共に修道院閉鎖。33年間続いたSSNDの城北橋における奉仕に終止符が打たれる。33年間に31人のSSNDsが奉仕。この出会いの中で、喜びも苦労もありました。神に感謝！
1999年、京都今海道町修道院に住み、ノートルダム学院小学校給食室勤務。
2000年誓願40周年、グループ４人で黙想と巡礼に北海道へ。祈り―旅―大自然―天気―恵
2003年ノートルダム学院小学校退職、その後パート職員、非常勤、嘱託として現在まで続けています。
2010年、誓願50周年。誓願グループでセントルイス、ニューオリンズを訪問。シスターメリージャンにもお会いできて感謝。神からの光、恵み。賛歌、喜び、聖霊の恵み。一人一人のシスターズに助けられて全て戴いたこと、神様の恵みに感謝しています。

イエス・キリストが一つにするために遣わされている様に、私もノートルダム教育修道女会会員としてその同じ使命に遣わされています。この恵みを生涯かけて生きられますように。共同体の生活を誇りに思います。グループに一生感謝します。福者マリアテレジア・マザーキャロラインの精神をもって、共同体を生きる恵みを願い求めます。

（初誓願 1960）

シスターメリー アントネット 近藤

メモを見ながら過去61年を振り返ってＡ４の２ページ半書いた。会を通して神様から頂くばかりの有難い、有難い物語。ここでは、その初期の部分のみをお届けします。
1950. 8.14 北海道名寄カトリック教会で、Frエンリコ・ゴッツイOFMより受洗。
1958.4．7入会　入会の動機：
①名寄教会で接したOFM（フランシスコ会会員）方の徹底した生き方と兄弟愛の模範。②親がキリスト教を理解できず、末っ子の自分に親を説得するだけの力がないので、自分の一生をもって親を説得したいと思ったこと。
1958－1959志願期、1959－1960修練期於鹿ケ谷：Ｓメリージャン・ラコウスキー志願長・修練長
この時期の思い出：「あなたの信仰は何処にありますか?」「できますよ！」「祈りませんでしたら、恵みを頂きません」「…しても宜しい」「練習がいります」「集中を守ります」「常識を使いました」“be good!”以上は（Ｓメリージャン語録）／分刻みの時間割　忙しかった！音楽・聖書・英語・ラテン語の勉強、家事手伝い、裁縫、土曜学校（西陣教会）われら同期６人は、上下を有能多才なグループに挟まれて霞んでいた（?）おかげで生き延びられたのかも。今思うに、この時期は常識に基づいてではなく、信仰に基づいて生きることを、体験を通して覚えさせる時期ということかな。
着衣式には姉鶴子と甥三谷興基が、初誓願式（1960. 4．1.）には両親が出席してくれました。
神に感謝！

（初誓願 1960）